

# 令和3年度全国学力・学習状況調査等の概要

令和3年10月 御前崎市教育委員会

## 「学習」に関する調査結果

### 御前崎市の平均正答率(全国平均との比較)

小学校		中学校	
国語	算数	国語	数学
○	△	○	○

全国平均正答率と比較して

- -3ポイント～+3ポイント
- △ -6ポイント～-3ポイント



#### 小学校 国語科 小学校国語は、全国平均正答率と比較し、ほぼ同じ結果でした

**良好** 指導要領領域の「書くこと」に関する問題の正答率は、全国よりも高い結果が見られました。

**課題** 「読むこと」に関する問題に課題が見られました。「読むこと」に必要な力は、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を捉えたり、目的を意識して、中心となる言葉や文を見つけて要約したりする力です。

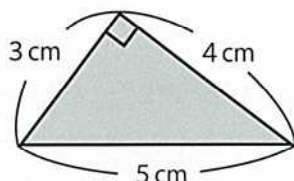
#### 小学校 算数科 小学校算数は、全国平均正答率と比較し、やや低い結果でした

**良好** 「長さや重さなどを測る」問題の正答率は、全国よりも高い結果が見られました。

**課題** 「図形」に関する問題に課題が見られました。左下の問題は、本年度の小学校算数②(1)の問題です。

② 図1のような直角三角形があります。

図1



(1) 図1の直角三角形の面積は何 $\text{cm}^2$ ですか。  
求める式と答えを書きましょう。

全国平均正答率55.1% 本市平均正答率44.7%

**【出題の趣旨】** 三角形の面積の求め方について理解している

図形の問題に挑戦する際には、**図形の構成要素**(直線、辺、頂点、直角、底辺、対角線など)に着目して、自分で**底辺や高さ**を判断して面積を求めることが重要になります。つまり、公式(底辺×高さ÷2)を知っているだけでは問題を解くことができず、大切になるのは、**どの辺を底辺とすべきか、高さはどの辺にするべきか**を考える力ということです。図1の場合は、底辺を3cm、高さを4cm(底辺を4cm、高さを3cm)と捉えることができます。誤答となった児童は、底辺と高さを正確に捉えることができていませんでした。

このようなことから、学校では、問題を解くだけの授業づくりではなく、子供自身が「この辺を底辺として考えると、高さは(図の中に示しながら)この部分になるね」とやりとりをする活動などを通して、図形の構成要素に着目する見方をより豊かにし、理解を深められるような授業づくりを進めていきます。

#### 中学校 国語科 中学校国語は、全国平均正答率と比較し、ほぼ同じ結果でした

**良好** 「話すこと・聞くこと」に関する問題は、全国よりも高い結果が見られました。

**課題** 「読むこと」に関する問題には、課題が見られました。文脈の中における言葉の意味を的確に捉えたり、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解したりすることが重要です。授業では、文学的な文章を読む際には、新しく出会った言葉の意味を調べ、様々な意味の中から文脈上相応しい意味を捉えたり、登場人物の心情や行動に着目したりする活動に取り組み、文脈における語句の意味を読み取る力を育成していきます。

#### 中学校 数学科 中学校数学は、全国平均正答率と比較し、ほぼ同じ結果でした

**良好** 「数量や図形などに対する知識・理解」は、全国よりも高い結果が見られました。

**課題** 「数学的な見方や考え方」に関する問題に課題が見られました。数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的(論理的)に説明することに課題があります。

学校では、問題が解けたかどうかに着目するのではなく、どんな見方から(視点で)問題を解いたのかといった、本質的な学びに焦点を当てた授業づくりを進めていきます。また、「授業の主役は子供」という考えを授業づくりの中心に添え、子供たちが主体的に学んだり、自分たちの力で課題を解決したりすることで、様々な場面で発揮できる汎用的能力の育成を目指します。

# 「生活」に関する調査結果

## 「早寝・早起き・朝ごはん」に関する項目

### 【スクラムスクール運営協議会重点項目「早寝・早起き・朝ごはん」】

資料①	同じ時刻に寝ている		同じ時刻に起きている		朝ごはんを食べている	
	全国	本市	全国	本市	全国	本市
小学6年	81.2%	77.4%	90.4%	91.7%	94.9%	94.4%
中学3年	79.8%	79.2%	92.7%	93.9%	92.8%	98.3%

「早起き」「朝ごはん」に関する数値は全国と比べて高い傾向にあります。一方、「早寝」に関する数値は、全国よりもやや低い傾向にあることが分かりました。

※資料①は肯定的な回答の割合を示しています



## 「ゲーム障害・ネット依存」に関する項目

### 【スクラムスクール運営協議会重点項目「ゲーム障害・ネット依存」】

資料②③共に、平日1日あたり2時間以上利用している割合

資料②	ゲーム時間	
	全国	本市
小学6年	49.4%	56.9%
中学3年	57.0%	76.0%

資料③	TV・ネット・ゲーム時間	
	全国	本市
小学4年	48.5%	52.0%
小学5年	58.7%	62.0%
中学1年	66.0%	76.1%
中学2年	68.2%	88.3%

本市の子供たちは、平日のメディア利用時間が全国の子供たちと比較し、高い傾向にあります。特に、中学生の利用時間は平均して多く、課題と言えます。

このことが、資料①の「同じ時刻に寝ている」割合が低い一因となっていると考えられます。

※小学4・5年、中学1・2年生は本市で実施した質問紙調査の結果を利用しています  
※日本小児医学学会では、「子供のメディア使用は1日2時間まで」としています



質問紙調査の結果、本市の子供たちの顕著な傾向は以下の通りです。

【数値が高い】「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」

【数値が低い】「携帯電話、スマートフォン、PCの利用について、家の人と約束したことを守っていますか」

### 【早寝・早起き・朝ごはんと学力の関係】質問紙調査回答別平均正答率

資料④	同じ時刻に寝ている		同じ時刻に起きている		朝ごはんを食べている	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数
小学6年生						
している	63.3%	64.9%	63.2%	67.8%	63.1%	65.9%
まったくしていない	54.1%	47.3%	0.0%	6.3%	54.3%	56.3%
中学3年生						
している	62.0%	58.3%	61.6%	58.5%	61.7%	57.3%
まったくしていない	35.9%	57.3%	39.3%	25.0%	60.7%	43.2%

### 【平日のメディア利用と学力の関係】質問紙調査回答別平均正答率

資料⑤	小学6年生		中学3年生	
	国語	算数	国語	数学
2時間以上	58.8%	61.1%	58.6%	53.4%
2時間より少ない	65.8%	69.2%	69.1%	63.9%

メディアを2時間以上使用している子供と2時間より少ない子供の平均正答率を比較すると、2時間より少ない子供の方が、小学校で国語7%、算数8.1%、中学校で国語数学共に10.5%高い結果となりました。メディアの利用時間が多い子と少ない子を比べると、中学生の方が正答率の差が大きくなっています。

※資料⑤は全く使用しない子どもは除いた値で比較しています

規則正しい生活ができている子供、メディアと上手に付き合えている子供ほど、平均正答率が高い傾向にありました。このことから、生活習慣の安定が子供の力を最大限に発揮することができる要因となっていると考えられます。御前崎市では、スクラムスクール運営協議会を中心に、園・学校・地域・家庭・関係団体・行政が一体となり、これらの問題に取り組んでいます。